



Fiery サーバーを設定する

Configure へのアクセス

Fiery サーバーを初めて起動した後や、システムソフトウェアをインストールした後は Fiery サーバーを設定する必要があります。設定を行わなかった場合はデフォルト設定が使用されます。使用している印刷環境に合った設定を選択してください。ネットワーク環境や印刷環境が変わった場合は、設定の調整が必要となる場合があります。

デフォルトの Web ブラウザーでプロキシサーバーを使用する場合、Command WorkStation から Configure を起動できないことがあります。デフォルトのブラウザー設定で、Fiery サーバーの IP アドレスを例外として登録します。デフォルトのブラウザーの接続設定を検証し、適宜調整します。

Configure を使用してクライアントコンピュータから Fiery サーバーを設定できます。Configure には次の場所からアクセスできます。

- Command WorkStation
- WebTools（サポートされているインターネットブラウザーを使用）

Command WorkStation から Configure にアクセスするには

- 1 Command WorkStation から対象の Fiery サーバーに接続し、システム管理者としてログインします。
- 2 Configure を開始するには、次のいずれかを完了します。
 - サーバーメニューで、**Configure** をクリックします。
 - デバイスセンターで、**一般情報**を選択し、次に右下の **Configure** をクリックします。
- 3 Configure から表示中のページ/フォームの Fiery サーバー設定オプションを変更します。

WebTools から Configure にアクセスするには

- 1 インターネットブラウザーを開き、Fiery サーバーの IP アドレスを入力します。
- 2 WebTools で、**Configure** タブをクリックします。

メモ：Configure を起動すると、ブラウザーにセキュリティ証明書のエラーが表示されることがあります。エラーが発生しても安全に進めることができます。
- 3 システム管理者権限でログオンします。

サーバー設定

Configure を使用して Fiery server を設定します。設定は初めて Fiery server を起動する際、またはシステムソフトウェアをインストールした後に必要です。Configure を使用すると、ネットワーク環境に関する情報やユーザーが Fiery server に送信したジョブのプリント環境の設定を指定することもできます。

メモ：Configure オプションの一部は Fiery server によってサポートされていない場合があります。

このヘルプに記載されていない Configure オプションについての詳細は、取扱説明書の『設定管理』を参照してください。

設定ワークフロー

Configure を使用すると、ネットワーク経由でジョブの印刷や処理に必要な Fiery server 設定を表示したり管理したりできます。

- 1 サーバー設定を変更するには、Command WorkStation で目的の Fiery server に接続します。
- 2 設定を変更するには、**サーバー**メニューで **Configure** をクリックします。
Configure へのアクセス方法については、[Configure へのアクセス](#)（1 ページ）を参照してください。
- 3 Configure で、変更したい設定項目に移動します。
- 4 各オプション設定を変更後、**キャンセル**または**保存**ボタンをクリックします。
- 5 変更を完了したら、Fiery server をリブートします。

メモ：変更は、Fiery server がリブートされるまで適用されません。

ユーザーとグループ

Fiery サーバーにアクセスするユーザーを作成し、グループに割り当てることによってユーザーの権限を定義できます。いくつかのグループがデフォルトで用意されています。同じグループ内の全ユーザーが同じ権限を持ちます。

ユーザーとグループに関する詳細情報は、**ユーザーアカウント**で確認できます。

作成したユーザーをグループに割り当てるだけでなく、組織全体のアドレスリストからユーザーを追加することもできます。これを行うには、最初に Fiery サーバーで LDAP サービスを使用可能に設定する必要があります。

新規ユーザーを作成する

グローバルアドレスリストや連絡先リストにユーザーが存在しない場合、手動でユーザーを作成できます。連絡先リストに表示される任意の名前をユーザーとしてグループに割り当てることができます。

システム管理者およびオペレーターグループには、それぞれシステム管理者およびオペレーターという名前のデフォルトユーザーが含まれています。

- 1 Configure で、**ユーザーアカウント**を選択します。
- 2 **Fiery 連絡先リスト**ボタンをクリックします。
- 3 **Fiery 連絡先リスト**ダイアログボックスで、**ユーザー追加**ボタンをクリックします。
- 4 **ユーザー作成**ダイアログボックスで、必要な情報を指定します。**作成**をクリックします。

5 閉じるをクリックします。

ユーザーを既存グループに追加する

既存のユーザーを既存のグループに追加したり、ユーザーを作成して既存のグループに追加したりできます。ユーザーは複数のグループに追加できます。

ユーザーのアカウントを作成しても、そのユーザーをグループに追加するまでは、権限を与えたことにはなりません。

- 1 Configure で、**ユーザーアカウント**を選択します。
- 2 ユーザーを追加するグループを選択します。
- 3 **ユーザー指定**をクリックします。
- 4 次のいずれかの方法でユーザーをグループに割り当てます。
 - 新規ユーザーを作成してグループに割り当てるには、ドロップダウンリストから**新規ユーザー作成/指定**を選択して、**ユーザー作成**ダイアログボックスに情報を入力し、**作成**をクリックします。
 - 既存のユーザーアカウントをグループに割り当てるには、**連絡先リストから追加**を選択します。**ユーザー指定**ダイアログで、**Fiery 連絡先リストのユーザー**にアカウント名を入力し、Enter キーを押すか、リストに表示されたアカウントを選択し、**ユーザー追加**をクリックします。
 - SSO ユーザーアカウントをグループに割り当てるには、**Azure AD から追加**を選択します。**ユーザーの割り当て**ダイアログボックスで、**SSO ユーザーリスト**を選択してログインします。アクティブな Azure セッションがすでに存在する場合、WebTools は Azure からユーザーのリストを取得します。存在しない場合は、Azure ログイン情報の入力求められます。リストから SSO ユーザーを検索してアカウントがリストにあれば選択し、**ユーザーの追加**をクリックします。
 - グローバルアドレスリストからユーザーを指定する場合は、**グローバルアドレスリストから追加**を選択します。LDAP が設定済みで使用可能になっている場合、このリストには、所属する組織の企業データベースから取得された名前が含まれます。**LDAP 設定**ボタンが表示されたら、ボタンをクリックして、Command WorkStation に対応するように LDAP 設定を行います。
- 5 ユーザーアカウントをグループに追加し終わったら、**閉じる**をクリックします。

グループからユーザーを削除する

グループからユーザーを削除できます。ユーザーを削除した後でも、Fiery サーバーに送信済みのジョブは処理されます。ジョブログにはそのユーザーの名前が関連するジョブ情報と共に残ります。

グループからユーザーを削除しても、Fiery 連絡先リストからは削除されません。

メモ：「システム管理者」または「オペレーター」という名前のデフォルトユーザーは削除できません。

- 1 Configure で、**ユーザーアカウント**を選択します。
- 2 ユーザーが所属しているグループを選択します。
- 3 グループから削除するユーザーの名前の上にカーソルを置きます。編集および削除のアイコンが表示されます。
- 4 削除アイコンをクリックします。
ユーザーは、グループから削除されますが、Fiery 連絡先リストからは削除されません。

ユーザー属性を変更する

ユーザーのパスワードやメールアドレスなどの属性を変更できます。ユーザーがすでにログインしている場合は、そのユーザーがログアウトして次に再びログインするときに変更が適用されます。

システム管理者およびオペレーターのデフォルトパスワードを変更するには、次の手順に従うか、新しいパスワードの設定を行います。

- 1 **Configure** で、**ユーザーアカウント**を選択します。
- 2 **Fiery 連絡先リスト**ボタンをクリックします。
- 3 ユーザー名の上にカーソルを移動します。
編集アイコンが表示されます。
- 4 編集アイコンをクリックします。**ユーザー編集**ダイアログボックスで、ユーザー属性を編集し、**保存**をクリックします。

グループ権限を変更する

- 1 **Configure** で、**ユーザーアカウント**を選択します。
- 2 グループ名の上にカーソルを移動します。
編集アイコンが表示されます。
- 3 編集アイコンをクリックします。**グループを編集**ダイアログボックスで、権限を選択またはクリアし、**保存**をクリックします。

メモ：以下の権限は、一部の Fiery サーバーではサポートされていない可能性があります。

- **キャリブレーション**：このグループのメンバーは Fiery サーバーのキャリブレーションを実行できます。デフォルトグループでは、システム管理者グループとオペレーターグループのみこの権限を持ちます。
- **サーバープリセット作成** - この権限を持つグループのメンバーは、ユーザーがジョブに対して選択できるプリントオプションのセットを保存できます。
- **ワークフロー管理** - この権限を持つグループのメンバーは、サーバープリセットや仮想プリンターを作成、編集、削除できます。
- **ジョブ編集** - この権限を持つメンバーは、待機キューまたは印刷済みキューのジョブを編集できます。

ユーザーを削除する

Fiery サーバーからユーザーを完全に削除できます。ユーザーを削除した後でも、Fiery サーバーに送信済みのジョブは処理されます。ジョブログにはそのユーザーの名前が関連するジョブ情報と共に残ります。

メモ：システム管理者またはオペレーターという名前のデフォルトユーザーは削除できません。また、システム管理者およびオペレーターというグループも削除できません。

- 1 **Configure** で、**ユーザーアカウント**を選択します。

2 Fiery サーバーからユーザーを完全に削除するには、次の操作を行います。

- a) **Fiery 連絡先リスト** ボタンをクリックします。
- b) **Fiery 連絡先リスト** ダイアログボックスで、削除するユーザーの名前の上にカーソルを置きます。編集および削除のアイコンが表示されます。

メモ：削除アイコンは、ユーザーの削除を許可されている場合にのみ表示されます。

- c) 削除アイコンをクリックします。
Fiery サーバーからユーザーが完全に削除されます。
- d) **閉じる** をクリックします。

シングルサインオン (SSO)

Fiery server は、Microsoft Entra ID を使用したクラウドベースのシングルサインオン (SSO) ユーザー認証用の OpenID Connect プロトコルをサポートしています。ユーザーは、既存の Entra ID ログイン情報を使用して Fiery server にログインします。

SSO 認証方法は、多要素認証 (MFA) に対応しています。SSO は、必要な情報を認証してユーザーの ID を確立するのに役立ちます。SSO を使用すると、適切なアクセス権を持つユーザーは、毎回認証しなくても Fiery server にログインできます。Fiery server はユーザーパスワードをローカルに保存しないため、SSO により安全なログインが確保されます。

Fiery server は、プロキシサーバーに接続されていない必要があります。インターネットに接続されている必要があります。また、インターネットとアクティブな Microsoft Entra ID アカウントを使用可能にしておく必要があります。

Microsoft Entra に新規アプリケーションを登録する

ユーザーアカウントが存在する Microsoft Entra ID テナントにアプリケーションを登録する必要があります。

- 1 Microsoft Entra アカウントにサインインします。
- 2 **Entra ID > アプリケーション登録 > 新規登録** に移動します。
- 3 **アプリケーションの登録** ページに詳細情報を入力します。
WebTools > Configure > ネットワーク > シングルサインオン からリダイレクト URL をコピーできます。この時点でリダイレクト URL を追加しなくても、アプリケーションが登録されます。リダイレクト URL は後で追加できます。
- 4 **登録** をクリックします。

アプリケーション登録後にリダイレクト URL を追加する

- 1 概要セクションで、**リダイレクト URL の追加** をクリックします。
- 2 右側にあるウィンドウのプラットフォーム設定で、**プラットフォームの追加** をクリックします。
- 3 **モバイルアプリケーションとデスクトップアプリケーション** を選択します。
- 4 **カスタムリダイレクト URL** で、リダイレクト URL を追加します。
- 5 **設定** をクリックします。

API 権限の付与

アプリケーションを登録した後、Entra ID から情報を読み取るための API 権限をアプリケーションに付与する必要があります。

- 1 Entr アカウントにサインインし、**管理 > API 権限 > 権限の追加**に移動します。
- 2 API 権限の要求ページで、**Microsoft グラフ > 委任権限**を選択します。
- 3 検索バーに「ディレクトリ」と入力し、**ディレクトリ読み取り,すべての**のチェックボックスを選択します。
- 4 **権限の追加**をクリックします。
要求は管理者によって許可される必要があります。

SSO をログイン方法として利用できるようにする

SSO ユーザーが Command WorkStation および WebTools にログインできるようにする

別の言語で認証メッセージを表示するには、ブラウザの言語を変更します。

- 1 **Configure > ネットワーク > シングルサインオン (SSO)** で、**SSO を有効にする**を選択します。
Microsoft Entra ID は、**Configure** では「Azure Active Directory (Azure AD)」と呼ばれる場合があります。
- 2 Microsoft Entra アカウントからこの情報をコピーし、**シングルサインオン**ウィンドウに貼り付けます。
 - OpenID Connect のメタデータ書類
 - ディレクトリ (テナント) ID
 - アプリケーション (クライアント) ID

ディレクトリ (テナント) ID およびアプリケーション (クライアント) ID は、登録済みアプリケーションの概要セクションで使用できます。同じセクションで**エンドポイント**をクリックすると、OpenID Connect メタデータ書類 URL が表示されます。

- 3 **リダイレクト URL** をコピーし、Entra で登録されているアプリケーションの認証セクションに追加します。

リダイレクト URL は事前に生成され、Fiery server の名前が含まれています。ホスト名が変更された場合は、Fiery server を再起動し、Entra で登録されているアプリケーションの認証セクションに新しいリダイレクト URL を追加する必要があります。

Fiery server は、同じイントラネット内の別の Fiery server と同じホスト名持つことはできません。

- 4 **保存**をクリックします。
- 5 詳細を検証するには、**検証**をクリックします。
Web ブラウザーのポップアップブロックをオフにする必要があります。
- 6 警告ページで**詳細**をクリックし、**リスクに同意して続行**をクリックします。

使用している Web ブラウザーによっては、オプションの名前が異なる場合があります。

詳細が正しい場合は、180 秒で認証が完了します。認証がタイムアウトした場合は、認証手順を再試行します。

Configure (WebTool) でユーザーアカウントを追加する

SSO 設定後、管理者は特定のユーザー権限を持つユーザーをグループに追加できます。

- 1 **Configure > ユーザーアカウント > ユーザーの割り当て > Azure AD から追加**にログインします。
- 2 **ユーザーの割り当て**ウィンドウで、**ログイン**をクリックします。
アクティブな Entra ID セッションがすでに存在する場合、WebTools は Entra からユーザーのリストを取得します。存在しない場合は、Entra ログイン情報の入力を求められます。
- 3 追加するユーザー名を選択し、右矢印をクリックします。

サーバー設定

さまざまなタスクを実行できます。たとえば、一般設定の指定、ジョブオプションの設定、システム管理者用とオペレーター用のパスワードの設定、ジョブログの管理、JDF 設定の指定を行うことができます。

Fiery server の名前を設定する

Fiery server の名前を指定したり、その他の一般設定を指定したりできます。

- 1 Configure で、**Fiery サーバー > サーバ名**を選択します。
- 2 Fiery server の名前を入力します。ここで入力した名前はネットワーク上に表示されます。

メモ：複数の Fiery server に同じ名前を割り当てないでください。

言語と地域を設定する

言語を選択すると、選択項目に応じた地域設定（日時を除く）が自動的に設定されます。必要に応じて、各設定を手動で変更することもできます。

- 1 Configure で、**Fiery Server > 地域設定**を選択します。
- 2 「サーバー言語」で、言語を選択します。
- 3 たとえば測定単位のみなど、地域設定を個別に変更したい場合は、必要に応じてその設定を変更します。
- 4 変更を保存します。

メモ：言語の変更を適用するには、Fiery server をリブートする必要があります。

日時を手動で設定する

地域設定機能では、タイムゾーンや夏時間の設定を手動で行うことができます。

- 1 Configure で、**Fiery Server > 地域設定**を選択します。
- 2 日時を指定します。

日時を自動設定する

タイムサーバーとポーリング間隔を選択することで、日時の自動設定メカニズムを利用できます。

1 Configure で、**Fiery サーバー** > **地域設定**を選択します。

2 **日時を自動的に設定**を選択し、**管理**リンクをクリックします。

3 タイムサーバーとポーリング間隔を選択します。

ポーリング間隔により、Fiery server がタイムサーバーから更新情報を受信する頻度が決まります。

ジョブオプションを設定する

印刷済みキューを使用可能にするなど、すべてのジョブに影響するジョブオプションを設定できます。

1 Configure で、**ジョブ管理** > **印刷済みキュー**を選択し、**印刷済みジョブを保存**チェックボックスを選択します。

このオプションを選択すると、ジョブを Fiery server に再送信せずに、印刷済みキューから再印刷できます。このオプションを選択しないと、ジョブは印刷後、Fiery server から削除されます。

2 **印刷済みキューに保存するジョブ数**フィールドに、印刷済みキューに保存するジョブの数を入力します。

メモ：このオプションは、印刷済みキューを有効にしている場合のみ使用できます。ジョブを印刷済みキューに保存すると、それだけ Fiery server の空き容量が消費されることに注意してください。

3 Fiery server はインポートされたジョブの最初のページのサムネイルを生成します。このプレビューは常にスプール済みジョブ用に生成されますが、この動作をオフにするオプションはありません。

4 スプールの前に大型ジョブの処理（RIP）を開始するように Fiery server を設定するには、**ジョブ管理**を選択し、**受信中に RIP** チェックボックスを選択します。

このオプションを有効にする前に、次の点を考慮してください。

- PDF および VDP ジョブは、スプールの完了してから印刷する必要があるため、これらのジョブでは受信中に RIP はサポートされません。
- 「受信中に RIP を使用可能にする」はネットワーク経由で受信した順番で印刷するため、ジョブの順番が混乱する場合があります。
- ネットワーク環境や、Fiery server にジョブを送信するクライアントコンピューターの処理速度によっては、「受信中に RIP を使用可能にする」を有効にすると、Fiery server のリソースが長時間独占されて、「受信中に RIP を使用可能にする」ジョブのスプール中に小規模ジョブや高速ジョブを「先にスキップして」処理できないことがあります。

5 PS から PDF への変換をジョブオプションファイルで制御するには、**ジョブ管理** > **PS を PDF に変換**を選択します。

6 変更を保存します。

システム管理者とオペレーターのパスワードを設定する

システム管理者およびオペレーターのデフォルトパスワードを設定できます。デフォルトでは、Fiery server にシステム管理者パスワードが設定されていますが、オペレーターパスワードは設定されていません。無許可の変更から Fiery server を保護するには、システム管理者パスワードを変更します。

メモ：設定したパスワードは忘れないようにしてください。

パスワードの詳細については、取扱説明書の『設定管理』を参照してください。

- 1 Configure で、**セキュリティ**を選択します。
- 2 次のいずれかを選択します。
 - システム管理者パスワード
 - オペレーターパスワード
- 3 新しいパスワードを入力し、確認のためにもう一度入力します。
- 4 変更を保存します。

システムログのダウンロード

システムログは Configure からダウンロードできます。これらのログは ZIP ファイルとしてコンピューターに保存されます。トラブルシューティング目的でテクニカルサポートに送信されることがあります。

- 1 Configure で、**Fiery サーバー > システムログ**をクリックします。
- 2 **ダウンロード**をクリックします。

ジョブログを管理する

ジョブログは、Fiery server に保存されたファイルです。このファイルには、ジョブログが最後に消去された時点または Fiery server が再インストールされた時点以降に Fiery server が処理したジョブがすべて記載されています。

ジョブログの各エントリには、ユーザー名、書類名、印刷日時、ページ数が含まれています。

- 1 Configure で、**Fiery サーバー > ジョブログ**を選択します。
- 2 ジョブログを E メールまたは SMB で自動的にエクスポートするように Fiery server を設定するには、**自動ジョブログエクスポートを使用する**を選択します。

このオプションを選択した場合は、エクスポートを実行する日時を指定してください。ジョブログは CSV (コンマ区切り値) ファイルでエクスポートされます。
- 3 ジョブログをエクスポート後に自動的に消去するには、**エクスポート後ジョブログを消去**を選択します。

メモ：エクスポートが正常に完了しない場合でも、ジョブログは消去されます。ジョブログを重要なアカウント情報として使用している場合は、このオプションを選択しないでください。この場合、ジョブログが正常に保存されたことを確認した後、Fiery server から消去するようにしてください。
- 4 SMB 経由でジョブログをエクスポートするには、**SMB**を選択し、必要な情報を入力します。**確認**をクリックして、SMB 情報が正しく入力されていることを確認します。

JDF 設定

JDF (Job Definition Format) 技術は、XML ベースのオープンなジョブチケット業界標準です。異なるグラフィックアートアプリケーションとシステムの間で、情報交換を簡単に行うためのフォーマットです。

Fiery JDF を使用すると、JDF チケットの作成が可能なアプリケーションから Fiery server に JDF ジョブを送信できます。

Configure を使用して、JDF 設定を指定し、Fiery JDF のバージョン、JDF デバイス ID、JMF の URL を表示します。

JDF と JMF の詳細については、『Fiery Command WorkStation のヘルプ』を参照してください。

- 1 Configure から **ジョブ送信 > JDF 設定** を選択します。
- 2 **JDF を使用可能にする** を選択します。
- 3 Fiery server に仮想プリンターが設定されている場合は、**仮想プリンターからのジョブ設定を使用** オプションから仮想プリンターを選択します。

メモ： このオプションは、特定のワークフローに適用する場合にのみ選択します。
- 4 **ジョブアクション** からデフォルトの印刷キューアクションを指定します。
- 5 JDF チケットに指定されている設定を上書きする場合は、**JDF ジョブを上記の設定で上書きする** を選択します。
- 6 JMF（ジョブメッセージフォーマット）URL のセクションには Fiery server に関する読み取り専用の情報が表示されます。この情報は JDF ワークフローを設定するのに使用できます。
- 7 印刷後に JDF ジョブを閉じる方法を指定します。
- 8 JDF ジョブを閉じるのに必要な項目を指定します。ジョブを自動または手動で閉じる前に、ここで選択した項目を入力する必要があります。
- 9 Fiery server が共通リソースを検索するネットワークパスを指定します。
 Fiery server は、必要なオブジェクトが見つかるまで、指定された順番でネットワークパスを検索します。
 Fiery server は、入力されたパスがネットワーク上に存在するかどうかを検証しません。

メモ： 他のユーザーが同じリソースにアクセスできるように、このパスを通知してください。
- 10 変更を保存します。

連絡先情報を指定する

Fiery server とプリントデバイスのサポート担当者の連絡先情報を指定できます。

- 1 Configure で、**Fiery サーバー** を選択し、**Fiery サポート連絡先情報** または **プリンターサポート連絡先情報** を選択します。
- 2 連絡先情報を使用可能なフィールドに入力します。

メモ： ここに入力する連絡先情報は、WebTools と Command WorkStation の「デバイスセンター」にも表示されます。
- 3 変更を保存します。

ネットワーク設定

Fiery server をお使いのネットワークに追加します。

コンピューター、サーバー、および Fiery server が互いに通信するときに使用するネットワークアドレスおよび名前を入力します。Fiery server は必ず動作中のネットワークに接続して、ネットワークで適切な情報を取得できるようにしてください。

イーサネット速度を設定する

Fiery server が接続されているネットワークの速度を指定します。速度がわからない場合は、自動検出機能を使用できます。

- 1 Configure で、**ネットワーク > イーサネット速度**を選択します。
- 2 Fiery server が接続されているネットワークの速度を選択します。
ネットワーク環境が混合している場合や、ネットワーク速度がわからない場合は、**Auto (10/100/1000)**オプションを選択します。
- 3 変更を保存します。

LDAP を設定する

使用している Fiery server でこのオプションがサポートされている場合は、LDAP プロトコル経由で所属組織内の情報サーバーと通信するように Fiery server を設定できます。Fiery server は E メールアドレスリストにアクセスして特定の機能を使用できます。

メモ：LDAP サーバーと、Fiery server のシステムタイム（**サーバー > 一般 > 日時**）との間の日時のずれは、5 分以内でなければなりません。

- 1 Configure で、**ネットワーク > LDAP**を選択します。
- 2 LDAP 設定ウィンドウで **LDAP を使用する**チェックボックスを選択します。
- 3 LDAP サーバーの名前または IP アドレスを入力します。
LDAP サーバーの IP アドレスとホスト名が DNS サーバーに登録されている必要があります。
- 4 LDAP サーバーとの通信に使用するポート番号を入力します。
- 5 安全な通信が必要な場合は、**セキュア通信 (TLS)**を選択します。
- 6 認証が必要な場合は、**認証を要求する**を選択し、認証の種類を指定します。
- 7 LDAP サーバーへの接続に使用するユーザー名とパスワードを入力します。
- 8 認証の種類として GSSAPI を選択した場合は、**ドメイン**フィールドに LDAP サーバーのドメイン名を入力します。
- 9 **検索ベース**に、Fiery server が LDAP サーバーを検索する場所を入力します。検索する場所を検証するには、画面下部の**認証**ボタンをクリックします。
- 10 **最大許容エントリ数**フィールドに、Fiery server が LDAP サーバーから受け入れるエントリの最大数を入力します。
- 11 **検索タイムアウト**フィールドで、Fiery server が LDAP サーバーと通信するまでの最長時間を指定します。
- 12 変更を保存します。

Web サービスと IPP 印刷を設定する

Web サービスを有効にすると、ユーザーは WebTools を使用できます。

Fiery server およびユーザーコンピューター上で TCP/IP が有効になってる必要があります。それぞれのコンピューターには、Java 対応の Web ブラウザーがインストールされ、有効な IP アドレスまたは DNS ホスト名が割り当てられている必要もあります。

Web サービスを有効にした後、Internet Printing Protocol (IPP) を有効にできます。Fiery server すべてのモデルが IPP 印刷をサポートしている訳ではありません。

対応ブラウザおよびコンピューター要件の詳細は、『設定管理』を参照してください。IPP 印刷用にクライアントコンピューターを設定する手順については、『印刷ガイド』を参照してください。これらのドキュメントは取扱説明書に含まれています。

- 1 Configure で、**ジョブ送信**をクリックし、**IPP**を選択します。
- 2 変更を保存します。

SNMP を設定する

SNMP を有効にすると、Configure やその他 Fiery server 機能へのリモートアクセスが可能になります。

- 1 Configure で、**ネットワーク > SNMP**を選択します。
- 2 **SNMP を有効化**を選択します。
- 3 Fiery server の SNMP 設定を当初の設定に復帰するには、**復元**ボタンをクリックします。

メモ：SNMP ページの読み込み後に SNMP 設定が変更された場合は、変更する前に**復元**をクリックする必要があります。
- 4 セキュリティレベル一覧から、次のいずれかを選択します。
 - **最小** - SNMP バージョン 1 と同じ機能を提供します。
 - **中** - SNMP バージョン 3 にさらなるセキュリティを提供します。
 - **最大** - SNMP バージョン 3 で最大セキュリティを提供します。
- 5 コミュニティ名読み込み、およびコミュニティ名書き込みを指定します。
- 6 SNMP サーバーによる認証または暗号化を必要としないユーザー名を、非セキュアユーザー名フィールドに入力します。
- 7 SNMP サーバーによる認証または暗号化を必要とするユーザー名をセキュアユーザー名フィールドに入力し、以下の情報を指定します。
 - ユーザー認証タイプ
 - ユーザー認証パスワード - セキュアユーザー名に基づいた MIB 値を読み込むためのパスワード
 - ユーザープライバシータイプ - 暗号化のタイプ
 - ユーザープライバシーパスワード
- 8 変更を保存します。

プロトコルの設定

TCP/IP 設定を指定する際には、DHCP または BOOTP サーバーからアドレスを自動的に割り当てることができません。

この方法をとる場合は、イーサネット、DNS、WINS サーバー、セキュリティ、IPsec、証明書に関する TCP/IP の設定を行う前に、適切なサーバーが稼働中であることを確認してください。

イーサネット用の TCP/IP を設定する

Fiery server で IP アドレスを自動的に取得するか、手動でアドレスを設定するかを指定できます。

メモ：Fiery server は、後になって TCP/IP が無効にされても、割り当てられた IP アドレスを保存しています。Fiery server の IP アドレスを別のデバイスに割り当てなければならなくなった場合は、まず Fiery server のアドレスをループバックアドレス（127.0.0.1）に設定します。

Fiery server には、有効な固有の IP アドレスが必要です。Fiery server で IP アドレスを自動的に取得するか、手動でアドレスを設定するかを指定できます。Fiery server による IP アドレスの自動取得を許可している場合は、ゲートウェイアドレスも自動的に取得されます。

DNS サーバーや WINS サーバーなど、他の種類の IP アドレスを自動設定したい場合は、Fiery server による IP アドレスの自動取得を許可する必要があります。

Fiery server の TCP/IP アドレスの自動取得を許可する

Fiery server が IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスを自動的に取得するよう設定できます。

- 1 Configure で、**ネットワーク > IPv4 アドレス**を選択します。
- 2 **IPv4 アドレス設定**を**自動**に設定します。
- 3 「DNS サーバー設定」および「WINS サーバー設定」を「自動」または「手動」に設定します。
- 4 変更を保存します。
- 5 ネットワークで IPv6 アドレスが使用されている場合は、**ネットワーク > IPv6 アドレス**を選択し、**IPv6 アドレスを使用**を選択します。

メモ：IPv6 を動作させるには IPv4 を有効にしてください。

- 6 変更を保存します。

Fiery server の TCP/IP アドレスを手動で設定する

TCP/IP アドレスを手動で設定する場合、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを指定する必要があります。

- 1 Configure で、**ネットワーク > IPv4 アドレス**を選択します。
- 2 **IPv4 アドレス設定**を**手動**に設定します。
- 3 それぞれのフィールドで IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。
- 4 「DNS サーバー設定」および「WINS サーバー設定」を「自動」または「手動」に設定します。

- 5 変更を保存します。
- 6 ネットワークで IPv6 アドレスが使用されている場合は、**ネットワーク > IPv6 アドレス**を選択し、**IPv6 アドレスを使用**を選択します。

メモ：IPv6 アドレスを使用するには、IPv4 が使用可能に設定されている必要があります。
- 7 変更を保存します。

DNS を設定する

Fiery server で IP アドレスから名前を解決できるようにするには、DNS の設定を行います。

Fiery server で DNS アドレスを自動取得できるようにするには、まず Fiery server が自身の IP アドレスを自動取得できるようにする必要があります。

- 1 Configure で、**ネットワーク > IPv4 アドレス**を選択します。
- 2 **DNS サーバー設定**を選択し、**自動**または**手動**を選択します。
- 3 手動を選択した場合は、DNS プライマリサーバーおよび DNS セカンダリサーバーの IP アドレスと、DNS 接尾辞（ドメイン名）を入力します。
- 4 変更を保存します。

WINS サーバー（名前解決）を設定する

WINS サーバーを自動で設定するか、手動で設定するかを指定できます。WINS サーバーを使用すると、IP アドレスではなく名前でネットワークリソースにアクセスできます。

Fiery server が WINS サーバーを自動設定することを許可するには、Fiery server の IP アドレスも自動で設定される必要があります。

- 1 Configure で、**ネットワーク > IPv4 アドレス**を選択します。
- 2 **WINS サーバー設定**の隣で、**自動**または**手動**を選択します。
- 3 **手動**を選択した場合、Fiery server の IP アドレスを入力します。
ユーザーが SMB（Server Message Block）経由で Fiery server にアクセスすると、この名前がネットワーク上に表示されます。この名前は Fiery server と同じものです。
- 4 変更を保存します。

ポートと IP アドレスを管理する

Fiery server への接続を制御するために、特定の IP ポートを介した通信を許可したり、IP アドレスの範囲を制限したりできます。

特定の IP ポート経由の通信を許可する

Fiery server への許可されていない接続を制限するために、ネットワークアクティビティを特定のポートに制限できます。許可されていないポートから送信されたコマンドやジョブは、Fiery server によって無視されます。

1 Configure で、**セキュリティ > TCP/IP ポートフィルタリング**を選択します。

2 **TCP/IP ポートフィルターを使用**を選択し、使用するポートを指定します。

Fiery server で許可するポートのみを選択します。

3 変更を保存します。

Fiery server でリモートデスクトップ接続を使用可能にするには、ポート 3389 が使用可能に設定されており、**Fiery サーバー**セクションで、「リモートデスクトップ」オプションが有効になっている必要があります。

メモ：一部の Fiery server はポート 3389 のオプションをサポートしていません。

IP アドレスの範囲を許可または制限する

Fiery server への許可されていない接続を制限するには、受容または拒否する IP アドレスを定義します。

デフォルトで、特別に受容するアドレス以外のすべての IP アドレスを拒否することも、特別に拒否するアドレス以外のすべての IP アドレスを承認することもできます。受容または拒否する IP アドレスの範囲を複数指定できます。許可されていない IP アドレスから送信されたコマンドやジョブは、Fiery server によって無視されます。デフォルトで IP アドレスを拒否するように設定して、受容する有効な IP アドレスを指定しない場合、Fiery server に対するすべてのネットワーク通信が無効になります。

1 Configure で、**セキュリティ > IP アドレスフィルタリング**を選択します。

2 IPv4 アドレスフィルタリングを許可するには、**IPv4 アドレスフィルタリング**チェックボックスを選択し、IPv4 の「デフォルトフィルタポリシー」で、特別に拒否するアドレス以外の IP アドレスを受容 (Accept) するのか、または、特別に受容するアドレス以外の IP アドレスを拒否 (Deny) するのかを指定し、**IPv4 アドレスフィルタリング追加**をクリックし、IP アドレスの範囲を入力し、その範囲を受容または拒否するのかを指定します。複数の範囲を追加できます。

3 IPv6 アドレスフィルタリングを許可するには、**IPv6 アドレスフィルタリング**チェックボックスを選択し、IPv6 の「デフォルトフィルタポリシー」で、特別に拒否するアドレス以外の IP アドレスを受容 (Accept) するのか、または、特別に受容するアドレス以外の IP アドレスを拒否 (Deny) するのかを指定し、**IPv6 アドレスフィルタリング追加**をクリックし、IP アドレスと接頭辞の長さを入力し、そのアドレスを受容または拒否するのかを指定します。複数の IP アドレスを追加できます。

4 変更を保存します。

IPsec (Internet Protocol Security) を設定する

クライアントコンピューターが IPsec をサポートしている場合、ユーザーから Fiery server への暗号化通信が可能です。

1 Configure で、**セキュリティ > IPSpec**を選択します。

2 **IPsec を使用する**を選択します。

3 事前共有鍵を定義するには、**事前共有鍵**ボックスに入力します。

事前共有鍵を定義した場合、IPsec を使用したすべての着信通信にはこの鍵が含まれている必要があります。

4 変更を保存します。

Configure で証明書を管理する

Fiery サーバーでは、ユーザーコンピューターと Fiery サーバーのコンポーネント間を安全に接続する必要があります。HTTPS over TLS は、2 つのエンドポイント間の通信を暗号化します。WebTools から Fiery サーバーに接続するには、HTTPS が必要です。これらの通信は、TLS 1.2 および TLS 1.3 で暗号化されます。

Fiery サーバーでは、システム管理者が TLS 通信中に使用する証明書を管理できます (Base64 でエンコードされた x.509 証明書形式)。Fiery サーバーは 4096、3072、2048 ビットのキー長で RSA 証明書をサポートします。

次の方法で証明書を管理できます。

- 自己署名デジタル証明書の作成。
- Fiery サーバーの証明書および対応する秘密鍵の追加
- 信頼できる証明書権限からの証明書の追加、参照、表示および削除。

メモ： 自己署名証明書はセキュアではないため、信頼できる認証局 (CA) の証明書を使用する必要があります。

信頼できる証明機関によって署名された証明書を取得したら、Configure セクションで証明書を Fiery サーバーにアップロードできます。

証明書または秘密鍵を追加する

証明書または秘密鍵を追加するには、その場所を指定します。

- 1 証明書についての情報を表示するには、証明書名の上にマウスを移動し、眼のアイコンをクリックします。
証明書を削除するには、ゴミ箱のアイコンをクリックします。
- 2 Configure で、**セキュリティ > 信用証明書**を選択します。
- 3 **追加**をクリックします。
- 4 **参照**をクリックし、ファイルを選択してから**追加**をクリックします。

Web サーバーに証明書を割り当てる

Web サーバーで使用する証明書の割り当てまたは再割り当てを行うことができます。

- 1 Configure で、**セキュリティ > サーバー証明書**を選択します。
- 2 **自己署名入り証明書作成**をクリックします。
- 3 証明書情報を指定し、保存します。
- 4 Web サーバーで使用する証明書を変更するには、証明書を選択して**証明書変更**をクリックし、証明書または秘密鍵の場所を指定します。

割り当てた証明書を削除する

割り当てた証明書を削除できます。

- 1 Configure で、**セキュリティ > 信用証明書**を選択します。
- 2 削除する証明書の上にカーソルを置きます。
削除アイコン（ゴミ箱）が表示されたことを確認します。
- 3 **削除**アイコンをクリックします。

セキュリティオプションを設定する

Fiery サーバーには、事前に定義されたセキュリティプロファイルの選択やユーザーデータの暗号化など、セキュリティ管理ツールが数多く用意されています。

PostScript セキュリティを設定する

PostScript セキュリティを使用すると、Fiery server のソフトウェア、フォント、カラーファイル、ジョブへのアクセスを制限できます。

PostScript ベースのフォントダウンローダーツールを使用してフォントをインストールするには、このオプションをクリアします。

- 1 Configure で**セキュリティ**を選択します。
- 2 **PostScript セキュリティ**のチェックボックスを選択します。

セキュリティプロファイルを選択する

Fiery セキュリティプロファイルにより、Fiery server を保護するための設定にすばやくアクセスできます。

- 1 Configure で、**セキュリティ > セキュリティプロファイル**を選択します。
- 2 列の下部にある**選択**ボタンをクリックして、**標準**または**高**を選択します。
プロファイルは円柱レイアウトで表示されます。
 - **標準**: デフォルトのセキュリティ設定
 - **高**: Fiery server のセキュリティを強化することができ、よく使用するセキュリティ機能が有効になります。
 - **現在**: 現在のセキュリティ設定の概要（読み取り専用）
- 3 **保存**をクリックします。

一部の設定オプションには追加のサブオプションがあり、それらは**セキュリティプロファイル**ウィンドウに表示されません。セキュリティプロファイルを使用すると、メイン（高レベル）設定をオンまたはオフに切り替えることができます。サブオプションがある場合、それらはデフォルト設定のままになります。プロファイルを選択して選択内容を保存すると、サブオプションを設定できるようになります。

セキュリティイベントの収集

組織のコンプライアンス要件を満たすために、Fiery server はセキュリティ関連のイベントを収集して分析し、セキュリティ監査ログに保存できます。

ログは一般的な SIEM ログ収集および分析ソリューションでサポートされる形式です。

イベントは JSON 形式です。Fiery、LLC の介入なしにイベントを読み取ることができます。

- 1 Configure で、**セキュリティ > セキュリティ監査ログ**を選択します。
- 2 **セキュリティ監査ログを有効化**を選択します。
- 3 収集されたイベントを表示するには、**ダウンロード**をクリックします。
ログは ZIP ファイルとして提供されます。
- 4 fieryauditlog.evtx を抽出し Windows イベントビューアで開く

セキュリティイベントは、割り当てられた Fiery server のストレージ容量に基づいて保持されます。ログサイズが最大記憶域（400MB）に達すると、古いイベントは自動的に削除されます。

プリンターを設定する

プリント接続を公開したり、ジョブの処理に影響するその他の設定を行ったりできます。

- 1 **ジョブ送信 > キュー**を選択し、Fiery server で公開するプリント接続を選択します。
 - **プレスキューの公開** - Fiery server の標準キューです。ジョブは受信された順に処理され、印刷されます。Fiery server では、キューが常に有効になっているため、このオプションの名前が異なる、またはオプションが使用できない場合があります。
 - **待機キューの開放** - 時間をおいてジョブ管理ツールからジョブを印刷するための保存領域です。
 - **フォントキューの公開** - フォントをダウンロードするには、これを選択します。また、PostScript セキュリティを無効にする必要があります（**セキュリティ > PostScript セキュリティ**）。
- 2 Fiery Hot Folders を使用してジョブを送信できるようにするには、**ジョブ送信**を選択して、**Fiery Hot Folders** チェックボックスを選択します。
- 3 変更を保存します。

RIP 設定

Fiery server でのファイルの処理方法を決定する設定を指定します。

Adobe PDF Print Engine (APPE)

Fiery server では、常に Adobe PDF Print Engine (APPE) を使用して、PDF ジョブを処理しレンダリングします。その際に、ジョブを PostScript に変換する必要はありません。Configure にこの機能のオプションがありますが、常にオンになっています。

PostScript を設定する

PostScript ジョブに影響する設定を行うことができます。ここでの設定は、ユーザーが設定を指定していないジョブに影響します。

設定の組み合わせのなかには不適切なものが存在する場合があります（OHP 用紙に両面印刷を指定するなど）。指定した設定の組み合わせが不適切であっても、エラーメッセージは表示されません。

- 1 **Configure** で、**RIP > PS 設定**を選択します。
- 2 オプションの設定を指定します。
- 3 変更を保存します。

PostScript 設定については、取扱説明書の『設定管理』を参照してください。

バリアブルデータ印刷（VDP）を設定する

バリアブルデータ印刷（VDP）で使用するオブジェクトについて、**FreeForm** ジョブとネットワーク上の場所（パス）を事前に解析するにあたり、その対象となるレコードの数を指定することができます。

- 1 **Configure** で、**RIP > VDP** を選択します。
- 2 ユーザーが面付けまたは両面印刷を **FreeForm 1** ジョブまたは **FreeForm Create** ジョブに適用する場合は、レコード長を選択します。
 - **ジョブ** - レコード境界をジョブ全体として定義します。
 - **FreeForm マスター** - レコード境界を **FreeForm** マスターの長さとして定義します。
- 3 ジョブのスプール中に解析するレコードの数を指定します。

数を入力した場合、**Fiery server** はレコード数をサンプルとして解析し、レコード長が統一されているかどうかを調べます。このサンプル中のレコード長が同じである場合、**Fiery server** はジョブ内のすべてのレコードが同じ長さであると仮定します。

Fiery server によってレコード長の異なるレコードが検出された場合は（「全レコード」またはサンプル数のどちらを指定したかに関係なく）、**Fiery server** は処理または面付けの目的に必要なときにすべてのレコードを解析します。**Fiery server** によってスプール時にレコード長の異なるサンプルレコードが検出されなくても、それ以降に長さの異なるレコードが検出されると、ユーザーはさらなるアクションの指定を求められます。

- 4 **追加**をクリックし、**Fiery server** が共通オブジェクトを検索するネットワークパスを指定します。
- 5 表示されるウィンドウでパス名を入力します。

パス名を入力する際は、マップ済みドライブ形式（たとえば、Z:¥フォルダー名）または UNC 形式（たとえば、¥¥コンピューター名¥フォルダー名）を使用します。
- 6 パスが認証の必要なコンピューターに存在する場合は、**リモートサーバー認証**を選択し、該当するユーザー名とパスワードを入力します。
- 7 **OK**をクリックします。
- 8 パスを追加するには、**追加**をクリックして上記の手順を繰り返します。
- 9 変更を保存します。

超高速 RIP モード

超高速 RIP は、印刷ジョブを同時に処理することで、印刷ジョブの性能を最大限に高めます。この機能は、印刷ジョブが一般的に 1～2 ページより多い場合に最も役に立ちます。

HyperRIP モードにアクセスするには、**Configure > RIP > HyperRIP モード**を選択します。

- **自動**を選択すると、Fiery server が最も効率的なジョブの処理モードを選択できます。
- ジョブが一般的に 10～20 ページより少ない場合は、**複数ジョブ**を選択して、複数の印刷ジョブを同時に処理します。
- ジョブが一般的に 10～20 ページより多い場合は、**単一ジョブ**を選択して、個々のジョブを、同時に処理するためのセクションに分割します。

メモ：最も効率的な選択は、処理および印刷するジョブの数とタイプによって異なります。効率を最大限に高めるには、ジョブの処理と印刷を一般的な組み合わせで混在させる際に、選択ごとの出力速度を比較することをお勧めします。

分散 RIP

適切なライセンスにより、Fiery server は複数のブレード上のジョブを処理できます。複数の複雑なジョブは、バックエンド印刷パイプラインが常に満杯であることを確認しながら、高速かつ並行して処理できます。Fiery server にジョブが到着すると、スループットを最大化するためにブレードに配布されます。

分散 RIP は、Fiery server の既存のすべての機能を維持し、既存のすべての Fiery アプリケーションと互換性があります。

ハードウェア要件

分散 RIP では、最小 64 GB の RAM を使用して Fiery XB ブレードを実行できる必要があります。CPU またはディスクドライブには特定の要件がありません。

HyperRIP

各分散 RIP は HyperRIP を実行できます。ただし、分散 RIP が有効な場合、Configure の HyperRIP オプションは使用できません。代わりに、このジョブ処理の配分が自動的に実行されます。

- ジョブパラレルモードでは、ジョブはブレード間で処理されます。各ブレードでは、異なるジョブを同時に処理できます。
- 各ブレード内では、ジョブはページパラレルモードのように処理されます。

分散 RIP を使用していても、バンドパラレルモードは常にオンになっています（バンドパラレルモードの Fiery server が設定されている場合）。バンドパラレルモードには **Configure** オプションがありません。1 ページまたは 2 ページの PDF のみが処理され、APPE が有効になっている必要があります。

フォント

フォント管理ウィンドウには、Fiery サーバーに常駐するフォントが表示されます。ローカルプリンターにフォントリストを印刷することもできます。

Fiery サーバーのフォントを管理する

フォントの追加、アップデート、削除およびフォント一覧の印刷ができます。

Configure で、次の設定を行います。

ジョブ送信 > キュー > フォントキューの公開を有効にします。セキュリティ上の理由から、フォントをインストールしている間のみ、**フォントキュー**を有効にします。

PostScript フォントの場合は、**セキュリティ > PostScript セキュリティ**を無効にします。

メモ: サーバー上の日本語フォントやサポートアプリケーションによってダウンロードされたフォントは、すべてロックされています。Fiery サーバーにダウンロードされた日本語のフォントは、アプリケーションをインストールすることでのみ削除できます。

1 次のいずれかの方法で、**デバイスセンター**を開きます。

- **サーバーリスト**でサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
- **サーバーリスト**でサーバー名をダブルクリックします。
- **サーバー > デバイスセンター**をクリックします。
- サーバー名を右クリックし、**デバイスセンター**を選択します。

2 **リソース > フォント**をクリックします。

3 **PS フォント**を選択します。

Fiery サーバーに現在常駐するフォントの一覧が表示されます。

4 フォントを追加または更新するには、**新規追加**をクリックします。**追加**をクリックして、ダウンロードするフォントを探し、**OK**、**リフレッシュ**をクリックします。

Adobe PostScript Type 1 フォントを追加できます。

5 フォントを削除するには、フォント一覧のロックされていないフォントを選択し、**削除**をクリックします。ロックされたフォントは削除できません。

6 フォント一覧を印刷するには、**印刷**をクリックします。

7 PostScript フォントを追加した場合は、**セキュリティ > PostScript セキュリティ**を再度有効にします。

フォントのバックアップと復元を実行する

Fiery サーバー上のすべてのフォントをバックアップおよび復元できます。フォントを個別に選択することはできません。

Fiery サーバーでフォントのバックアップおよび復元を実行するには、システム管理者としてログインする必要があります。

1 次のいずれかの方法で、**デバイスセンター**を開きます。

- **サーバーリスト**でサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
- **サーバーリスト**でサーバー名をダブルクリックします。
- **サーバー > デバイスセンター**をクリックします。
- サーバー名を右クリックし、**デバイスセンター**を選択します。

2 **リソース > フォント**をクリックします。

3 **バックアップ**または**復元**をクリックします。

4 表示される web ブラウザーウィンドウで、セキュリティの指示に従います。

- 5 **バックアップリソースと設定**で、**今すぐバックアップ**をクリックします。
- 6 ダイアログボックスが表示されたら、システム管理者としてログインします。
- 7 バックアップする項目の一覧で、**フォント**を選択します。
- 8 以下のガイドラインを順守します。
Fiery サーバーも格納されている内蔵ディスクにはフォントをバックアップしないでください。フォントの復帰は、バックアップの作成元になったのと同じ Fiery サーバーに対して行う必要があります。

Configure を終了する

一部の設定は Fiery サーバーをリブートしないと反映されません。設定変更の反映に再起動、リブート、またはその他の動作が必要な場合、ページ上部にメッセージが表示されます。

- 1 必要な変更を行います。
リブートが必要な設定を複数行う場合、すべての設定変更を完了してからリブートします。
- 2 変更が反映されるように、Fiery サーバーをリブートします。

サーバー設定の内容を表示、保存、または印刷する

Command WorkStation のサーバー設定タブに現在の Fiery サーバー設定が一覧表示されます。

サーバー設定の内容を表示する

サーバー設定タブから、Fiery サーバー設定のカテゴリを表示したり、設定オプションを変更したりできます。

- 1 Command WorkStation から対象となる Fiery サーバーに接続し、**デバイスセンター > 一般 > サーバー設定**をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - ページの左にあるショートカットをクリックして、表示したいカテゴリの設定内容を表示します。
 - ウィンドウの右下隅にある **Configure** をクリックして、現在の Fiery サーバー設定オプションを変更します。

サーバー設定をファイルとして保存する

接続先の Fiery サーバーごとに、サーバー設定をファイルとして保存できます。これは特に、複数の Fiery サーバーを管理している場合に、各 Fiery サーバーの設定の変更を把握するのに便利です。

- 1 Command WorkStation から希望の Fiery サーバーに接続します。
- 2 **デバイスセンター > 一般 > サーバー設定**をクリックします。

- 3 **別名保存**をクリックします。
- 4 ファイル名と保存場所を指定します。
- 5 ファイルのタイプとして **PDF** または **テキスト** を選択します。
- 6 **保存**をクリックします。

サーバー設定ページを印刷する

設定を行った後、サーバー設定を印刷して設定を確認し、Fiery server の近くに掲示してすぐに参照できるようにします。ユーザーは、現在のデフォルト設定など、このページの情報が必要です。

- 1 設定ファイルを保存します。
- 2 保存したファイルをオフィスプリンターに印刷します。

バックアップと復元について

Fiery リソースと設定、または Fiery サーバーの全体的なシステムイメージのいずれかのバックアップを取ることができます。

バックアップとシステムイメージの詳細については、取扱説明書の『設定管理』を参照してください。

Command WorkStation (FS400/400 Pro 以降) から Fiery サーバーの設定をバックアップする

Command WorkStation から、バックアップしたい Fiery サーバーの設定を選択できます。

バックアップファイルは Fiery サーバーではなく、ネットワークサーバーに保存してください。Fiery サーバーに保存すると、システムソフトウェアを再インストールした場合、バックアップファイルが削除されます。

設定は、機種とバージョンが同じであれば、別の Fiery サーバーに復元できます。ただし、サーバー名、IP アドレス、ネットワーク設定などの設定は復元されません。既存の設定がそのまま維持されます。同じネットワーク上にある両方の Fiery サーバーに問題が発生するのを防ぎます。

- 1 管理者として Fiery サーバーに接続し、以下のいずれかの操作を行います。
 - **デバイスセンター > 一般 > ツール > Fiery リソースおよび設定** をクリックします。
 - **サーバー > バックアップ/復元** を選択します。
- 2 表示される新しい Web ブラウザーウィンドウで、**Fiery リソースと設定** をクリックします。
- 3 **今すぐバックアップ** をクリックします。
- 4 バックアップしたい項目を選択して、**続行** をクリックします。
- 5 表示されるウィンドウで、バックアップファイルの名前を指定します。
- 6 (オプション) **ファイル名に日付を追加** を選択することもできます。
- 7 **続行** をクリックします。

- 8 必要なファイルをダウンロードし、ファイルの場所を指定します。
.fbf ファイルと.DAT ファイルを選択する必要があります。

Command WorkStation (FS400/400 Pro 以降) から Fiery サーバー設定を復元する

以前に Fiery サーバーの設定をバックアップしている場合、Command WorkStation からバックアップを復元できます。

設定は、モデルとバージョンが同じであれば、別の Fiery サーバーに復元できます。ただし、サーバー名、IP アドレス、ネットワーク設定などの設定は復元されません。既存の設定がそのまま維持されます。同じネットワーク上にある両方の Fiery サーバーに問題が発生するのを防ぎます。


- 1 管理者として Fiery サーバーに接続し、以下のいずれかの操作を行います。
 - **デバイスセンター > 一般 > ツール > Fiery リソースおよび設定** をクリックします。
 - **サーバー > バックアップ/復元** を選択します。
- 2 表示される新しい Web ブラウザーウィンドウで、**Fiery リソースと設定** をクリックします。
- 3 **復元** をクリックします。
- 4 表示されるウィンドウで、**ファイルを選択** をクリックして復元したい設定の場所を参照し、**開く** をクリックします。
.fbf ファイルと.DAT ファイルを選択する必要があります。
- 5 **続行** をクリックします。
- 6 復元したい項目を選択し、**続行** をクリックします。
- 7 復元処理が完了した後で、Fiery サーバーのリポートを求めるメッセージが表示された場合は、リポートを行います。

トラブルシューティング

トラブルシューティングの手順を実行することにより、一般的な問題は解決できます。

より詳細な情報やサポートが必要な場合には、登録ユーザーは [Fiery Communities](#) でディスカッションを始められます。『Fiery Command WorkStation のヘルプ』も確認できます。

- 1 Fiery server に必要なすべてのケーブルが接続されており、正しいポートにしっかりと固定されていることを確認します。
多くの問題は、接続不良に原因があります。


危険

製品のカバーは取り外さないでください。また、別の方法で Fiery server のハードウェアを分解しないでください。シャーシ内のケーブルや部品の点検や修理などの作業は、認定サービス担当者以外に行わないでください。
- 2 Fiery server の電源が入らない場合は、電源コードがきちんと接続されており、適切な電力がそのコンセントから利用可能なことを確認してください。

- 3 Fiery server の印刷速度が遅い、または予定通りにジョブが処理されない場合は、Fiery server の設定が使用しているネットワークと印刷環境に最適な設定であるかを確認します。
ネットワーク環境またはワークフローに変更が生じた場合は、Fiery server の設定にも変更が必要になることがあります。
- 4 Fiery server にサードパーティー製のアプリケーションがインストールされていないことを確認します。
Fiery server は、サードパーティー製のアプリケーションをサポートしておらず、システムの問題を引き起こすことがあります。これには、クライアントコンピューターまたはネットワークにインストールされているマルチメディアメッセージングサービス (MMS) アプリケーションが含まれます。
- 5 Fiery server をスキャンするウイルス対策ソフトウェアが、継続的に実行されるのではなく、リクエストした場合にのみ実行されるように設定されていることを確認します。
- 6 Fiery server のオペレーティングシステムの設定が変更されていないこと、またオペレーティングシステムがアップグレードされていないことを確認します (テクニカルサポートが承認した場合を除く)。
オペレーティングシステムの設定やバージョンの変更はシステムの問題を起こすことがあります。
- 7 Windows のファイアウォールが無効になっていないことを確認します。
- 8 Command WorkStation のサーバー一覧に表示されているエラーメッセージをすべて確認します。
- 9 Command WorkStation の表示とすべてのエラーメッセージのスクリーンショットを撮り、Command WorkStation をいったん終了してから再度開きます。再起動時になんらかのエラーメッセージが表示される場合は、テクニカルサポートに連絡してください。
- 10 Fiery Preflight オプションを使用してエラーを点検できます。詳細は、『Fiery Command WorkStation のヘルプ』を参照してください。
- 11 Fiery server をリブートします。Fiery server が使用可能な状態にならない、またはその他の問題が解決しない場合は、関連情報を収集した上でテクニカルサポートに連絡してください。

ジョブエラーレポートを作成するには

ジョブエラーレポートを作成する場合、Command WorkStation は、現在のジョブファイル、ログ、および Fiery server に関する情報を含む zip ファイルを作成します。ジョブエラーレポートは、印刷ジョブがエラー状態になくとも作成できます。

メモ: エラーログのエントリは一定期間の後に上書きされます。エラーログに関連の情報が確実に含まれるように、エラーに気づいた後できるだけ早くジョブエラーレポートを作成します。ジョブエラーレポートは、Fiery server をリブートする前、また可能であれば、他の印刷ジョブの処理や印刷が行われる前に作成してください。

ジョブエラーレポートは、待機一覧内のどのジョブに対しても作成できます。

- 1 Command WorkStation で、**待機**一覧内のジョブを選択します。
- 2 Windows コンピューターからアクセスしている場合は、**Ctrl** キーを押したままジョブを右クリックします。Mac コンピューターからアクセスしている場合は、**Command+Ctrl** キーを押したままジョブを右クリックします。
- 3 ショートカットメニューで、**エラーレポート作成**をクリックします。
- 4 ジョブエラーに関する情報を入力します。
 - a) テキストフィールドにコメントや追加の詳細を入力します。

次の情報を入力することを推奨します。

- エラーが発生した日付と時刻
- 表示されたエラーコード（エラーコードがある場合）
- 予期していた結果の説明
- 予期しなかった実際の結果の説明
- エラー発生に至るまでに行った手順
- エラーの頻度（1 度だけ、たまに、時々、頻繁に、常になど）
- エラーが複数のファイルで発生したかどうか
- レポート作成で選択したファイルはエラーが発生したファイルと同じファイルかどうか
- 印刷ジョブをクライアントコンピュータから送信した場合は、オペレーティングシステムのバージョン
- インストールされている Fiery server ユーザーソフトウェアのバージョン
- 同じ時間帯に Fiery server で実行したその他のアクションの説明

b) オプション: ジョブに、ラスターデータが含まれている場合は、**ラスター**を選択してデータをレポートに含めることができます。

ラスターは、ファイルが適切に処理されなかった場合に含めると役立つことがあります。その結果、許可されたレポートサイズを超えてしまうこともあります。その場合は、レポートとは別に提供すると役立ちます。

c) オプション: レポートでジョブにレポートのカラー プロファイルが含まれている場合は、**カラープロファイル**を選択してプロファイルをレポートに含めることができます。

カラープロファイルは、カスタムプロファイルで印刷カラーが不適切な場合に含めると役立つことがあります。

d) ジョブファイルを除外するには、ログのみ保存（ジョブファイルなし）を選択します。

e) オプション: ネイティブソースファイルをレポートに含めるには、**追加（+）**をクリックします。

ネイティブソースファイルは、ジョブが処理されないまたは印刷されない場合に含めると役立つことがあります。その結果、許可されたレポートサイズを超えてしまうこともあります。その場合は、レポートとは別に提供すると役立ちます。

5 関連する追加ファイルは、レポートに添付してください。

ジョブのファイルサイズは 6GB 未満でなければなりません。エラーレポートには添付ファイルや関連ファイルがあるため 6GB を超えることがあります。

6 ジョブエラーレポートを保存します。

システムログのダウンロード

システムログは **Configure** からダウンロードできます。これらのログは ZIP ファイルとしてコンピュータに保存されます。トラブルシューティング目的でテクニカルサポートに送信されることがあります。

1 **Configure** で、**Fiery サーバー > システムログ**をクリックします。

2 **ダウンロード**をクリックします。

実行時のエラーの解決

ほとんどの実行時のエラーは接続状況の問題と関連しており、このセクションで紹介するヒントを使用することで簡単に解決できます。

プリンターが見つからない

ネットワーク上でプリンターの検出に失敗する原因の多くは、Fiery server の名前または IP アドレスの設定が競合していたり、正しく設定されていないことにあります。

Fiery server では：

- **Configure > Fiery サーバー > サーバー名**にホスト名（DNS 名）を必ず入力してください。詳細は、『Fiery Command WorkStation のヘルプ』を参照してください。

Windows または Mac のクライアントコンピューターでは：

- クライアントコンピューターから Fiery server に ping を送信して、あらゆる接続状況の問題に関する標準的なトラブルシューティングを実行します。
- 標準的なトラブルシューティングで問題が解決しない場合は、ホストファイルで Fiery server のホスト名（DNS 名）を指定します。

メモ：クライアントコンピューターで一度ホスト名を指定すると、ホスト名を変更するごとにアップデートする必要があります。

- クライアントコンピューター上の Command WorkStation およびその他の Command WorkStation ユーティリティで Fiery server に接続するには、Fiery server の IP アドレスまたは DNS 名をサーバーリスト内で設定する必要があります。詳細については、『ユーティリティ』を参照してください。

Command WorkStation またはユーティリティで Fiery server に接続できない

Command WorkStation またはユーティリティで Fiery server に接続できない場合は、ネットワーク接続を点検し、ユーザーが正しい IP アドレスまたは DNS 名を入力していることを確認します。

- ユーティリティまたは WebTools を実行するリモートコンピューターが、状況情報の取得によって干渉する可能性があります。リモートアプリケーションを閉じ、接続し直します。
- Command WorkStation ソフトウェアを再起動し、接続し直します。
- Fiery server をリブートします。

Fiery server で設定を確認します。Command WorkStation に接続できない場合は、WebTools の Configure を使用します。

- **Configure > Fiery サーバー**を選択し、**サーバー名**の設定を確認します。
- **Configure > ネットワーク**を選択し、IP アドレス設定などのネットワーク設定を確認します。
- クライアントコンピューターに必要なネットワークプロトコルがインストールされていることを確認します。